

## 報告事項 No. 2 資料

### 1 教科に関する調査

#### (1) 本市の校種、教科ごとの「比較的できている点（◇）」と「課題があると考えられる点（◆）」について

##### ア 小学校 国語

◇目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にすることはできている。

◆目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することに課題がある。

##### イ 中学校 国語

◇目的や意図に応じて、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすることはできている。

◆目的に応じて必要な情報に着目して要約することに課題がある。

##### ウ 小学校 算数

◇数量の関係を、□を用いた式に表すことはできている。

◆球の直径の長さや立方体の一辺の長さの関係を捉え、立方体の体積の求め方を式に表すことに課題がある。

##### エ 中学校 数学

◇二つのグラフにおける y 軸との交点について、事象に即して解釈することはできている。

◆事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することに課題がある。

#### (2) 本市の校種、教科に共通する課題について

目的に応じて必要な情報を関連付けて、自分の言葉でまとめたり、自分の考えを表現したりすることに課題がある。

### (3) 本市の共通する課題に関する設問

#### ア 中学校 国語

#### (ア) 問題 2 四

2 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

一口に植物といっても、世の中には多種多様なものがあります。木でも草でもよいのですが、そのなかから好きなものを片端から思い浮かべて、それぞれの葉の形を一言で表してみてください。どのような言葉があがってくるでしょうか。

「楕円形の」「薄い」「先のとがった」「平べったい」「丸い」「細かく裂けた」「細長い」「ギザギザのある」「厚ぼったい」「針のようない」「手のひらのような」……。それこそさまざまな形容があるでしょう(図)。

では次に、それらの言葉を2つのグループに分けるとしたら、どのように分けられるでしょうか。もちろん、言葉を2つのグループに分けるやり方はいろいろあるので、何が正解、ということはありません。自由に考えてみてください。

① 今、問題となっているのは「形」ですから、二次元的(平面的)な形容と、三次元的な(厚み方向の)形容に分けることはできそうです。つまり、先ほど挙げた例であれば、「楕円形の」「先のとがった」「丸い」「細かく裂けた」「細長い」「ギザギザのある」「針のようない」「手のひらのような」は平面的形容で、「薄い」「平べったい」「厚ぼったい」は厚み方向の形容です。こうして見ると、平面的形容のほうは数多くてバラエティーに富んでいるのに対して、厚み方向の形容は、きわめて限定されている感じがします。しかも、「薄い」と「厚ぼったい」という正反対の言葉が入っているのが気になります。

しかし、考えてみると、誰も「サイコロが厚ぼったい」とは言いません。「厚ぼったい」も「薄い」も、平たい物質の形容であって、その形の本質は「平たい」ことにあるわけです。平たいものの中には、平均的なものより厚めなもの、薄めなものがあって、その程度の差が形容の差を生み出しているのです。

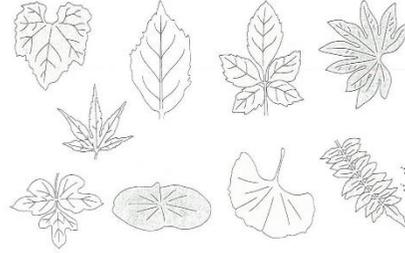


図 さまざまな形の葉

つまり、植物の葉の、三次元的な厚み方向の形の本質は「平たい」というひとつの共通の概念にまとめることができます。

② といった途端、ネギの葉はどうなんだ、という突っ込みが入りました。たしかに長ネギの葉は丸くなっています。これはどう考えたらよいのでしょうか。

八百屋さんから長ネギを買ってきてよく観察すると、白い部分は何層にもなっていて中まで詰まっているので、実際の立体的な形は円柱です。しかし、緑色の部分はほぼ一層で、中は空っぽですから、実際の形は円筒形です。葉としての役割を果たす緑色の部分は、外側一層しかなくて、丸く湾曲しているもの、ネギも平たいといえるでしょう。やはり、三次元的な形は「平たい」という一言に集約できそうです。

一方で、葉の形の、二次元的、平面的な形容は本当に多種多様です。三次元的な形は「平たい」という共通性、普遍性を示すのに対して、二次元的な形は、植物によって異なり、多様性を示すことがわかります。

この「普遍性」と「多様性」には、生き物の研究をしていると、なにかにつけてぶつかります。生物学とは違って、数学や物理学、それに化学の一部は、普遍性の学問です。1+1は誰にとっても2ですし、鉄がたまに金の性質を示す、というようなことはありません。鉄は鉄、金は金です。酸素と水素が反応してできるのは水であって、たまには水ではなくて油ができてよいだろう、などといった化学者に怒られます。

しかし、生き物を扱っていると、そのように単純には物事が進みません。植物の葉は常に緑色であるといいたいところですが、モミジは秋になると紅葉しますし、園芸店に行けばいくらでも白や黄色の斑入りの葉、あるいは紫色が鮮やかな葉を見つけることができます。植物は光合成で生きています、といった途端に、ナンバンギセルなどの寄生植物は違うだろうという突っ込みが入ります。植物の多くが緑色の葉をもって光合成をしているのは事実であって、それは植物の本質的な生き方を反映しているのですが、その本質にさえ、例外があります。ましてや、葉の平面的な形は、植物の種類ごとに違う、多様性の宝庫なのです。

(園芸公敵「植物の形には意味がある」による。)

四 本文に書かれていることを理解するために、着目する内容を決めて要約します。次のア、イから一つ選んで（どちらを選んでもかまいません。）要約しなさい。

なお、読み返して文章を直したいときは、二本線で消したり行間に書き加えたりしてもかまいません。

ア 筆者が、葉の形を表す言葉をどのようなグループに分け、各グループにどのような特徴があると述べているかについて。

イ 筆者が、数学や物理学などと生物学とでは、学問としてどのような違いがあると述べているかについて。

※ 左の枠は、下書きに使ってもかまいません。解答は必ず解答用紙に書きなさい。

←選んだ（着目する内容）を塗りつぶしなさい。

〈着目する内容〉

⑦

⑧

--	--	--	--

(イ) 出題のねらい

目的に応じて必要な情報に着目して要約する。

(ウ) 正答例

(選択肢アを選んだ場合)

葉の形を表す言葉を、二次元的な形容のグループと三次元的な形容グループに分け、前者には多様性、後者には共通性という特徴があると述べている。

(選択肢イを選んだ場合)

数学や物理学などは普遍性の学問、生物学は普遍的なことにも例外のある多様性の学問という違いがあると述べている。

(エ) 結果

正答率 川崎市…45.3% 全国…42.6%

主な誤答 正答条件②を満たさないで回答している 32.7%

正答条件② 選んだ(着目する)内容について、必要な情報を適切に取り上げて書いている。

(オ) 共通する課題に関して

本市においては、説明文を扱った学習で、教師が文章の解釈を伝えるのではなく、生徒自らが主体的に情報を見つけていけるような学習の展開にするなど、授業に工夫が見られる。しかし、正答条件②を満たさない「まとめて書いてはいるが、必要な情報を適切に取り上げていない」生徒が、32.7%いることから、目的に応じて必要な情報を見つけることに課題がある。

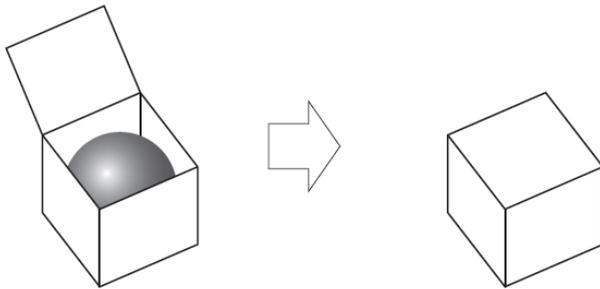
イ 小学校 算数

(ア) 問題 3 (3)

(3) 直径 22 cm の球の形をしたボールがあります。



このボールがぴったり入る立方体の形をした紙の箱の体積を調べます。



この立方体の形をした紙の箱の体積が何  $\text{cm}^3$  を求める式を書きましょう。  
ただし、紙の厚さは考えないものとします。また、計算の答えを書く必要はありません。

(イ) 出題のねらい

球の直径の長さと立方体の一辺の長さの関係を捉え、立方体の体積の求め方を式に表す。

(ウ) 正答

$$22 \times 22 \times 22$$

(エ) 結果

a 正答率 川崎市…43.1% 全国…36.5%

無解答率 川崎市…13.3% 全国…9.8%

b 主な誤答

$22 \times 3.14$  等  $3.14$  を用いた式を解答している……14.5%

$22 \times 22$  と1面の面積を求める式を解答している…8.5%

(オ) 共通する課題に関連して

本市においては、課題の解決に向けて、「どんな方法が使えるか」「習ったことで使えることはないか」等、子どもに解決の見通しをもたせるなど、授業に工夫が見られる。しかし、主な誤答例に着目すると、球の直径の長さに円周率をかけたり、立方体の1面の面積を求めたりしていることから、球の直径と立方体の一辺の長さの関係から、立方体の体積を求めるために必要な情報を考えて選択したり、必要な既習事項と関連付けたりすることに課題がある。また、無解答率が高いことも憂慮する必要があると考えている。

(4) 指定都市における本市の調査結果

ア 指定都市結果一覧

令和6年度 全国学力・学習状況調査 指定都市の調査結果 ※数値は平均正答率

	小 国語	全国：67.7
1	京都市	7.2
2	さいたま市	7.1
3	川崎市	6.9
3	浜松市	6.9
3	広島市	6.9
3	福岡市	6.9
7	千葉市	6.8
7	横浜市	6.8
7	新潟市	6.8
7	神戸市	6.8
7	岡山市	6.8
12	札幌市	6.7
12	仙台市	6.7
12	相模原市	6.7
12	静岡市	6.7
12	熊本市	6.7
17	名古屋市	6.6
17	大阪市	6.6
17	北九州市	6.6
20	堺市	6.5

	小 算数	全国：63.4
1	京都市	6.8
2	川崎市	6.7
2	さいたま市	6.7
4	千葉市	6.5
4	横浜市	6.5
4	名古屋市	6.5
7	神戸市	6.4
7	岡山市	6.4
7	広島市	6.4
7	福岡市	6.4
11	札幌市	6.3
11	相模原市	6.3
11	浜松市	6.3
11	熊本市	6.3
15	仙台市	6.2
15	静岡市	6.2
15	大阪市	6.2
18	新潟市	6.1
18	堺市	6.1
20	北九州市	6.0

	中 国語	全国：58.1
1	仙台市	6.1
1	さいたま市	6.1
3	川崎市	6.0
3	札幌市	6.0
3	浜松市	6.0
3	京都市	6.0
7	横浜市	5.9
7	相模原市	5.9
7	岡山市	5.9
10	千葉市	5.8
10	新潟市	5.8
10	静岡市	5.8
10	神戸市	5.8
10	福岡市	5.8
10	熊本市	5.8
16	名古屋市	5.7
16	堺市	5.7
16	広島市	5.7
16	北九州市	5.7
20	大阪市	5.6

	中 数学	全国：52.5
1	さいたま市	5.8
2	川崎市	5.6
2	仙台市	5.6
2	静岡市	5.6
2	浜松市	5.6
2	名古屋市	5.6
7	横浜市	5.5
7	神戸市	5.5
9	札幌市	5.4
9	福岡市	5.4
11	京都市	5.3
11	岡山市	5.3
13	千葉市	5.2
13	相模原市	5.2
15	新潟市	5.1
15	大阪市	5.1
15	広島市	5.1
15	熊本市	5.1
19	堺市	5.0
20	北九州市	4.9

いずれの項目の平均正答率も全国の数値を上回っている。また、指定都市においても上位に位置している。

イ 本市の傾向の要因

全ての子どもたちが「わかる授業」を目指し、子どもたち一人ひとりに確かな学力を育むために習熟の程度に応じたきめ細かな指導等を進めており、各学校が調査結果を効果的に活用し、主体的・対話的で深い学びの実現に向けて授業改善に取り組んだ成果であると捉えている。

### 3 学習や生活習慣に関する質問調査

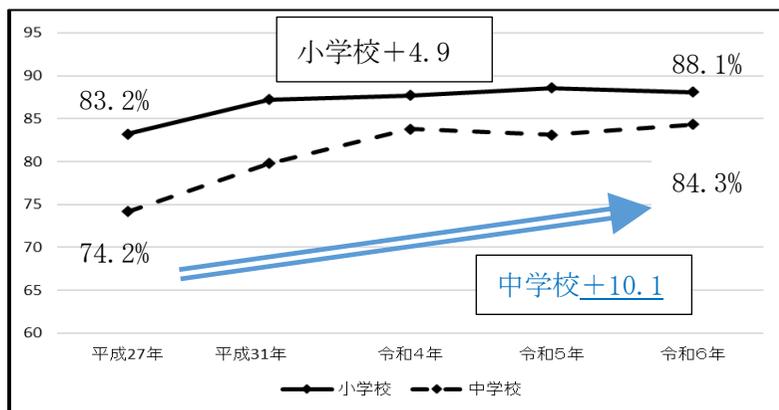
#### (1) 学習に対する興味・関心や授業の理解度等

- ・比較数値 「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した肯定的な割合
- ・注目結果 平成27年度と比較して、±5ポイント以上の開きがある場合は、⇒をつけた。(赤：小学校、青：中学校)

#### ア 国語

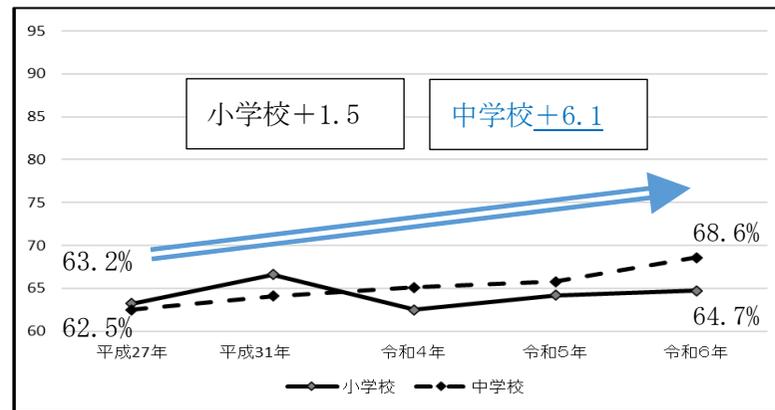
平成27年度と比較すると、「国語の授業の内容はよく分かる」について、小学校では4.9ポイント、中学校では10.1ポイント高くなった。

国語の授業の内容はよく分かる



	H27	H31	R 4	R 5	R 6	参考全国 R6
小	83.2%	87.2%	87.7%	88.6%	88.1%	86.3%
中	74.2%	79.8%	83.8%	83.1%	84.3%	82.7%

国語の勉強は好き

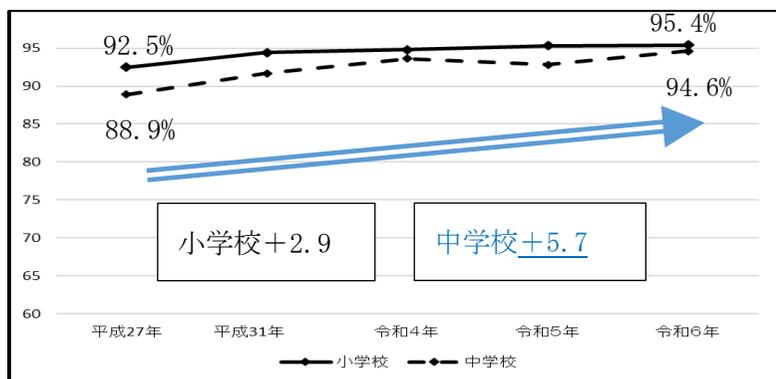


	H27	H31	R 4	R 5	R 6	参考全国 R6
小	63.2%	66.6%	62.5%	64.2%	64.7%	62.0%
中	62.5%	64.1%	65.1%	65.8%	68.6%	64.3%

平成27年度と比較すると、「国語の勉強は将来役に立つと思う」について、小学校では5.5ポイント、中学校では9.2ポイント高くなった。それ以外の項目についても、平成27年度よりも高くなった。

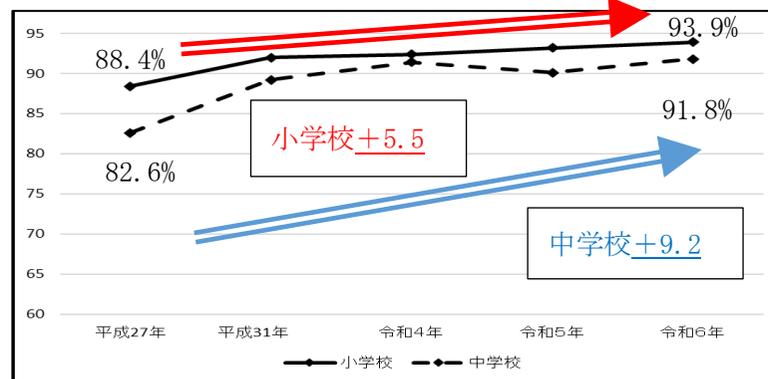
今後も、「全ての子どもが分かる授業」を目指して主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に取り組み、国語を学ぶ意義や言葉を扱うことよさを実感しながらより主体的に学べるよう、指導の工夫に取り組むことが重要である。

国語の勉強は大切だと思う



	H27	H31	R 4	R 5	R 6	参考全国 R6
小	92.5%	94.4%	94.8%	95.3%	95.4%	94.5%
中	88.9%	91.7%	93.6%	92.8%	94.6%	93.9%

国語の勉強は将来役に立つと思う

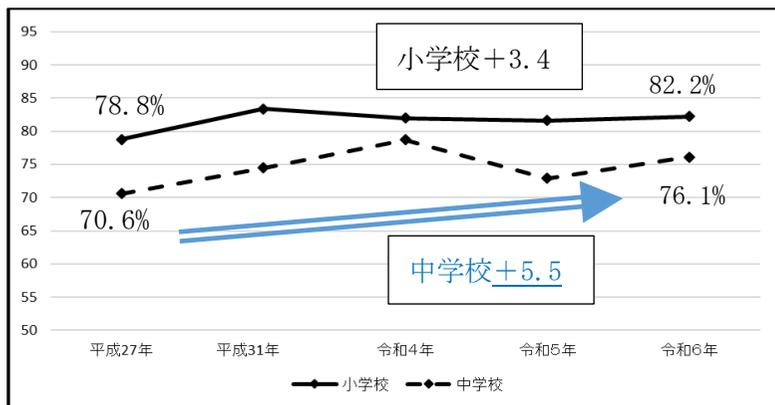


	H27	H31	R 4	R 5	R 6	参考全国 R6
小	88.4%	92.0%	92.4%	93.2%	93.9%	93.2%
中	82.6%	89.2%	91.4%	90.1%	91.8%	90.6%

イ 算数・数学

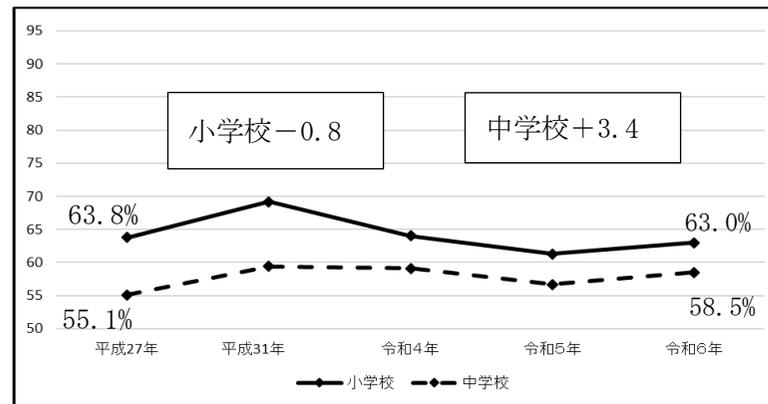
平成27年度と比較すると、「算数・数学の授業の内容はよく分かる」について、小学校では3.4ポイント、中学校では5.5ポイント高くなった。

算数・数学の授業の内容はよく分かる



	H27	H31	R 4	R 5	R 6	参考全国 R6
小	78.8%	83.4%	82.0%	81.6%	82.2%	82.1%
中	70.6%	74.5%	78.7%	72.9%	76.1%	75.7%

算数・数学の勉強は好き

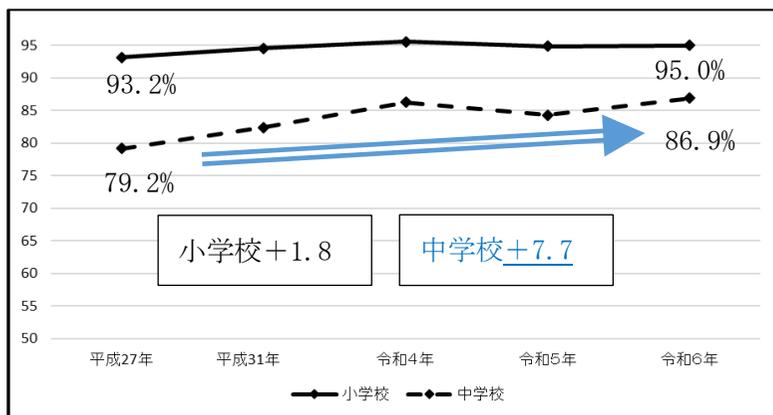


	H27	H31	R 4	R 5	R 6	参考全国 R6
小	63.8%	69.2%	64.0%	61.3%	63.0%	61.0%
中	55.1%	59.4%	59.1%	56.7%	58.5%	57.2%

平成27年度と比較すると、「算数・数学の勉強は将来役に立つと思う。」について、小学校では4.4ポイント、中学校で11.0ポイント高くなった。

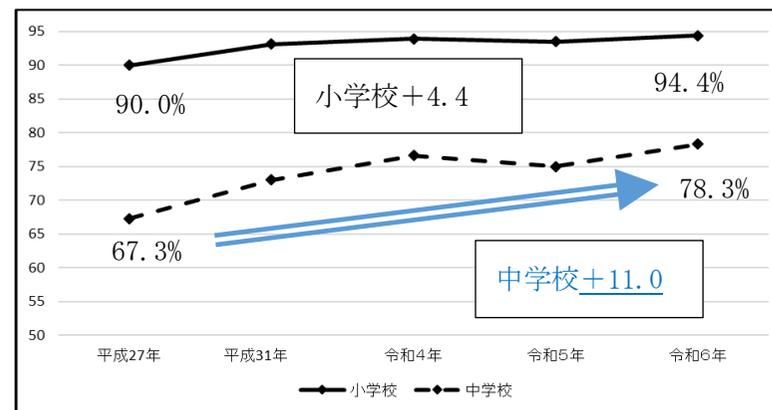
今後も、きめ細かな指導の充実を図りながら、中学校では、数学の学習をすることの意味や意義を感じられるよう、授業改善に取り組むことが重要である。

算数・数学の勉強は大切だと思う



	H27	H31	R 4	R 5	R 6	参考全国 R6
小	93.2%	94.6%	95.6%	94.9%	95.0%	94.6%
中	79.2%	82.4%	86.3%	84.3%	86.9%	87.2%

算数・数学の勉強は将来役に立つと思う



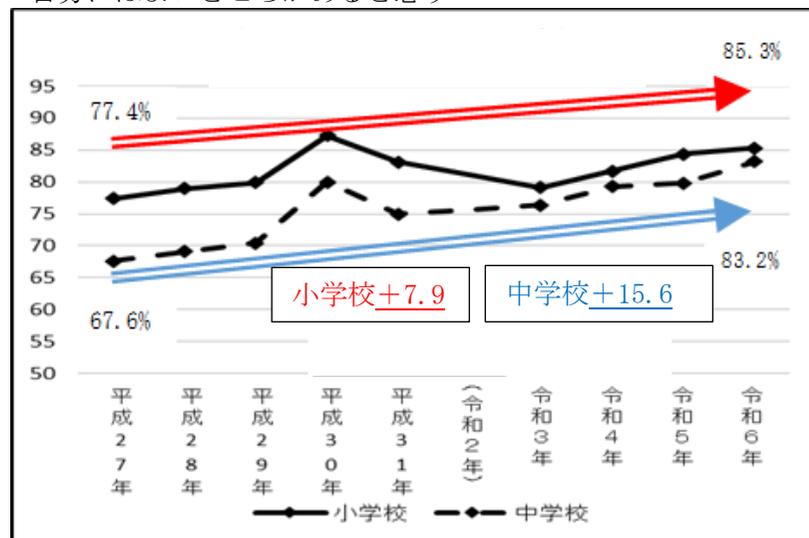
	H27	H31	R 4	R 5	R 6	参考全国 R6
小	90.0%	93.1%	93.9%	93.5%	94.4%	94.1%
中	67.3%	73.0%	76.6%	75.0%	78.3%	78.5%

(2) 規範意識、自己有用感等

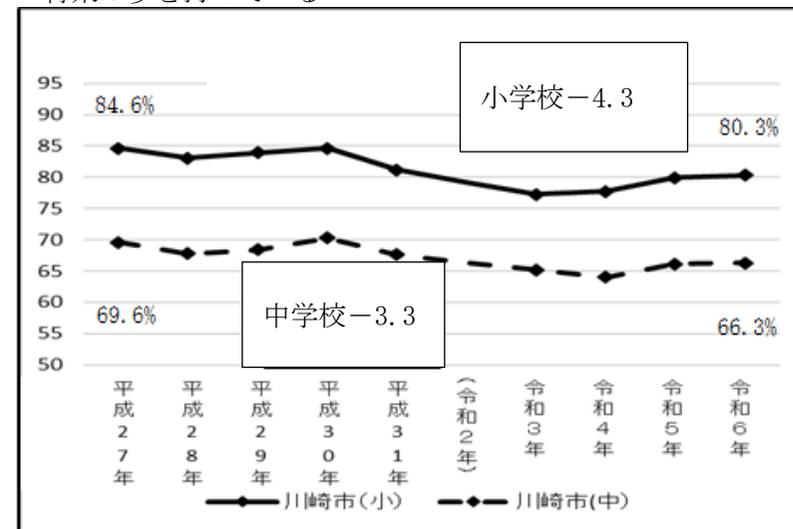
- ・比較数値 「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した肯定的な割合
- ・注目結果 平成27年度と比較して、±5ポイント以上の開きがある場合は、⇒をつけた。(赤：小学校、青：中学校)

平成27年度と比較すると、「自分にはよいところがあると思う」について、小学校では7.9ポイント、中学校では15.6ポイント高くなった。「将来の夢を持っている」について、小学校、中学校ともにやや下回っている。

自分にはよいところがあると思う



将来の夢を持っている



	H27	H28	H29	H30	H31	R 3	R 4	R 5	R 6
小	77.4%	79.0%	79.9%	87.3%	83.1%	79.1%	81.7%	84.4%	85.3%
中	67.6%	69.1%	70.4%	80.0%	75.0%	76.4%	79.3%	79.8%	83.2%
	参考全国 R6								
小	84.1%								
中	83.3%								

	H27	H28	H29	H30	H31	R 3	R 4	R 5	R 6
小	84.6%	83.1%	83.9%	84.6%	81.2%	77.3%	77.7%	79.9%	80.3%
中	69.6%	67.8%	68.4%	70.3%	67.6%	65.2%	64.0%	66.1%	66.3%
	参考全国 R6								
小	82.4%								
中	66.3%								

### (3) ICTを活用した学習状況

- ・比較数値 「ほぼ毎日使用している」と回答した割合、「ほぼ毎日」と「週3回以上使用している」と回答した合計の割合
- ・注目結果 令和5年度や全国と比較して、±5ポイント以上の開きがある場合は、下線をつけた。

「ほぼ毎日」と「週3回以上使用している」と回答した合計の割合について、令和5年度と比較すると、中学校では5.0ポイント高くなった。また、全国と比較すると、小学校では5.0ポイント、中学校は14.5ポイント上回っている。

5年生まで（中学校1、2年生の時）に受けた授業で、PC・タブレットなどのICTを、どの程度使用しましたか。

「ほぼ毎日使用している」と回答した割合

	本市 (R4)	本市 (R5)	本市 (R6)	R5との 比較	全国 (R6)	全国との 比較
小学校	31.7%	29.8%	25.9%	-3.9	25.3%	+0.6
中学校	28.3%	35.6%	40.7%	<u>+5.1</u>	31.0%	<u>+9.7</u>

「ほぼ毎日使用している」と「週3回以上使用している」と回答した合計の割合

	本市 (R4)	本市 (R5)	本市 (R6)	R5との 比較	全国 (R6)	全国との 比較
小学校	65.7%	67.4%	64.5%	-2.9	59.5%	<u>+5.0</u>
中学校	64.4%	73.9%	78.9%	<u>+5.0</u>	64.4%	<u>+14.5</u>

(4) 地域や社会に関わる活動の実施状況等

- ・比較数値 「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した割合
- ・注目結果 令和5年度や全国と比較して、±5ポイント以上の開きがある場合は、下線をつけた。

令和5年度と比較すると、小学校では5.4ポイント、中学校では15.7ポイント高くなった。中学校においては他都市においても同じような傾向が見られるが本市の増加傾向は顕著であった。

平成28年度から全市で取り組んできた「キャリア在り方生き方教育」を土台とし、市制100周年に関連した「学校e～ね★サミット」の中で、子どもたちが、自分が住む地域との関わりを自分事として捉えて、主体的に学習した成果と捉えている。

地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか

	本市 (R5)	本市 (R6)	R5との 比較	全国 (R6)	全国との 比較
小学校	80.0%	85.4%	<u>+5.4</u>	83.5%	+1.9
中学校	59.5%	75.2%	<u>+15.7</u>	76.1%	-0.9

他都市の中学校の状況

	R5	R6	R5との比較
神奈川県	60.8%	74.1%	+13.3
横浜市	63.9%	77.1%	+13.2
相模原市	57.4%	69.5%	+12.1
さいたま市	66.9%	78.7%	+11.8